

ROCKETプログラムと 学校の活動の違い

学校の活動

同じゴールを目指す

- ・ 決まったルールに沿って、活動
- ・ 失敗しないように先生が途中で指示を出す
- ・ 考えていても、終わりの時間が決まっている
- ・ 教科書にそって進む
- ・ みんなと違ったことやったら認められない。
- ・ 集団行動を大事にする

ROCKETプログラム

ゴールが沢山ある

- ・ 自然に学習できる
- ・ 違った結果が出ても、そのままやる
- ・ だからみんな一人一人違う
- ・ 先生は目的を教えてくれる、自分たちの好きなようにできる
- ・ 楽しい

- ・ 縛られたやり方じゃない
- ・ みんな楽しそう。ぼーっとしている人がいない
- ・ 学校の社会見学は見て感想を書く
ROCKETは見て体験できる
- ・ 関心がなかった場面があっても、
興味の引き立て方が上手いから興味が広がる
- ・ 記憶に残る。ROCKETでやったことは忘れない

- ・ 上手に話せなくても参加できる
- ・ 最初にしんどかったら、休んで良いよと言われるけど楽しすぎて作業中休む子なんていない
- ・ また行きたくなる。1日が早い
- ・ 10段階で学校3だとしたらROCKETは10 家は7

ROCKETの次の日

正直反動がすごい

- ・ ROCKETに参加すると、次の日学校に行くのが辛すぎる
- ・ でも学校へ行かないと参加用紙を出せない
- ・ だから、ROCKETを学校**頑張っているご褒美**にしている
- ・ 感想をレポートにして、学校に提出している
- ・ これは、こんなこととして欲しいという願い

学校でROCKETをしてみたら

- 学校の先生が、ROCKETがやるようなことしたら良いと思う
- 学校の先生がROCKETをしてみたら、結局学校の先生のやり方になると思う。
- 学校の先生って、社会に縛られている
- 学校の先生が縛られれない事をしようにも、実行するのが 難しい
- **対策** ROCKETの時間だけは、ROCKETのやり方にする

ROCKETの存在

僕は配慮をもらってようやく勉強できるようになった
しかし、色々な感覚が邪魔して学校では学びにくい
でも、世の中折り合いが大事

ROCKETは個性を受け入れて自信を持たせてくれる
同時に、何が足りないか気がつく
難しい課題が見つかる場所です だから楽しい

SOSが出せない子供もいる

一人で悩んでいる子を誘ってあげたい

思い切って応募できるのは少しの人

- ・ ROCKETに参加してくれても、不安が強くてできない人もいる
- ・ その子は学校へもいけず、孤独だと思う
- ・ 頑張って参加してみたら、友達ができる可能性もある
大丈夫って伝えたい
- ・ 一人でずっと作業している子もいる それでも大丈夫

沼から出れない人に

- 助けてあげたくても、僕はロープをもっていない
- 引っ張り上げたくても、力不足で一緒に落ちてしまう
- だから大人に手紙を届けることしかできない
- 僕も沼でもがいていた。
沈んでいたけどSOSはだしていた
そうしたら、太いロープを何本も投げてもらえた。
- 絶対離さない**あきらめない力が必要**